



知ってとくとく獣害対策 戦略的なイノシシ捕獲

はじめに

農作物被害対策のためのイノシシ捕獲は、加害群及び繁殖年齢に達した個体を狙って戦略的に実施することが重要です。地域ぐるみで戦略を練り、量（捕獲頭数）のみならず、質（農作物に加害する個体を確実に仕留めること）を追求しましょう。

1 イノシシ有害捕獲の実情

イノシシの有害捕獲個体の大部分は「捕獲しやすい時期における」「捕獲しやすい個体（幼獣）」であり、十分な被害防止効果が得られていないのが実情です。

その根拠として…

- ・江口は「1998年から2008年までの10年間で全国のイノシシ捕獲頭数は4.5倍に増えたが、農作物被害は減らなかった」と報告しています¹⁾。この傾向はいまだ変わっておらず、捕獲が対策として十分に機能していないと考えられます。
- ・イノシシは性成熟（2歳）までに大部分が死亡するため、それ以前の個体の捕獲は被害防止効果が低いとされます。佐賀県で実施された捕獲個体の体重調査では、確実に性成熟後とみられる40kg以上の個体はわずか13%だったと報告されています²⁾。
- ・愛知県内においても、月別の有害捕獲実績（2016年）をみると、出産、育児期に当たる6～10月の捕獲頭数が年間の約65%を占めており（図1）、繁殖に関与する前の幼獣が多く捕獲されていると推察されます。

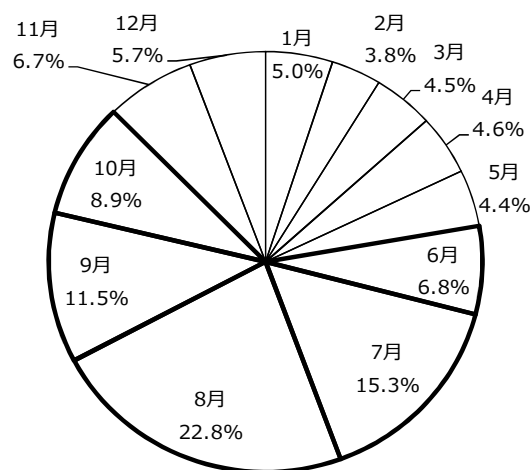


図1 愛知県内のイノシシ捕獲頭数の月別比率（2016年度、有害捕獲及び個体数調整で合計6,698頭捕獲）

そこで…

2 戦略的な捕獲「3箇条」

- 農地を利用する個体群を確実に仕留める
- 繁殖個体を含む群れごと捕獲を狙う
- 誘引効率の高いわなを利用する

それぞれを詳しく解説します。

(1) 農地を利用する個体群を確実に仕留める

- 山奥での100頭よりも農地付近での1頭の方が効果的です。
- 農地に近い林縁部で集中的に捕獲しましょう（図2）。

・山梨県が実施したイノシシのGPS調査では、農地を利用する個体群とまったく利用しない個体群に分別され、農地利用個体群の行動圏の75%は林縁から200m以内だったと報告されています（図2）³⁾。

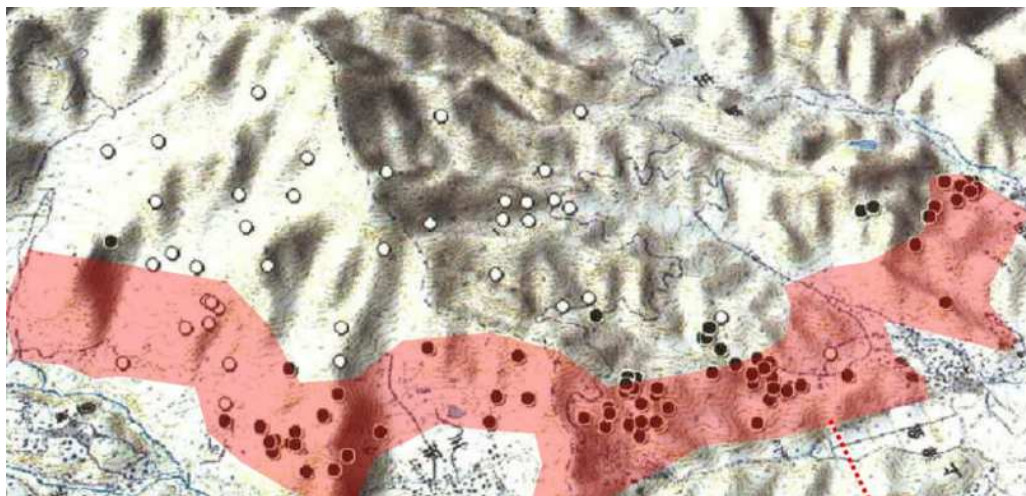


図2 山梨県北杜市におけるイノシシGPS調査の結果（本田ら³⁾）

● 農地に出没する個体（農地利用個体） ○ 農地に出没しない個体
（出展：環境省、イノシシの保護管理に関するレポート（平成25年度版））

(2) 繁殖個体を含む群れごと捕獲を狙う

- 親子連れの幼獣のみを捕獲してしまわないようにすることが重要です。
- しかし…
- 群れごと捕獲は難易度が高く、1頭も捕獲できない可能性があります。

- ・農業総合試験場（長久手市）で実施した調査の結果、幼獣と成獣とでわな（鉄檻）に対する反応が異なり、幼獣はすぐに侵入するが成獣は全く侵入しませんでした（図3）。
- ・仕掛け（蹴り糸）の作動状況を調査したところ、高さ40cm以下では幼獣のみを捕らえる結果となり、成獣にわなの危険を学習させる可能性が高いと考えられました（データなし）。
- ・授乳期に当たる生後100日まで⁴⁾の幼獣のみ捕獲は強制離乳となり、年複数回の出産を招く可能性があります。

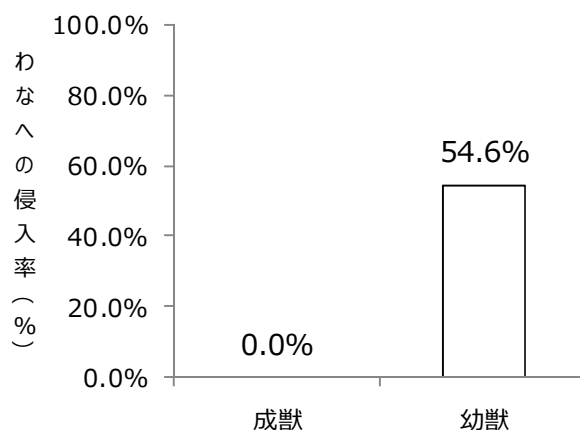


図3 はこわな（鉄檻）における成獣と幼獣の侵入率
（2018年6～9月、農業総合試験場）



5～9月と10～4月で作戦を切り替えましょう！

- ① 授乳期の幼獣が多い5～9月は仕掛けの高さを50cm以上とし、群れごと捕獲を目指す。
- ② 9月までに群れごと捕獲に成功しなかったら、10～4月は仕掛けの位置を変更し、捕れる個体を捕獲（当年産子を生き残らせないために）。

(3) 誘引効率の高いわなを利用する

農業総合試験場での調査結果からも、県内で広く使用される鉄製の捕獲檻（はこわな）による繁殖個体（成獣）の効率的な捕獲は困難とみられます。そこで、より誘引効率が高いわなの利用も検討しましょう。

・岡崎市在住で農林水産省認定の農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーである成瀬勇夫さんが開発した**竹製の捕獲檻**（図4）は警戒心を抱かせにくく、特に設置初年度は捕獲実績が優れていました⁵⁾。

※「知ってとくとく獣害対策 名人・成瀬さんの竹檻づくり」が愛知県公式ウェブサイト（農業水産局農業振興課）に掲載されています。



図4 岡崎市のアドバイザー、成瀬氏が手掛ける竹檻

3 道具や手法よりも「人」が重要

こまめに誘引餌を配置するなど、わなをきちんと管理することはなによりも重要です。

- ・農業総合試験場での調査の結果、わな付近でのイノシシ撮影頭数は餌配置から日数が経過するにつれ明確に減少しました（図5）。捕獲実績を上げるためには、**こまめな誘引餌の管理が重要**であるといえます。
- ・地域住民と狩猟免許保持者の協力体制で取り組む「**有害鳥獣捕獲における狩猟免許を有さない捕獲従事者容認事業（環境省）**」で**地域ぐるみの捕獲**を実施すれば、**わなの管理状態が改善につながります**⁶⁾。

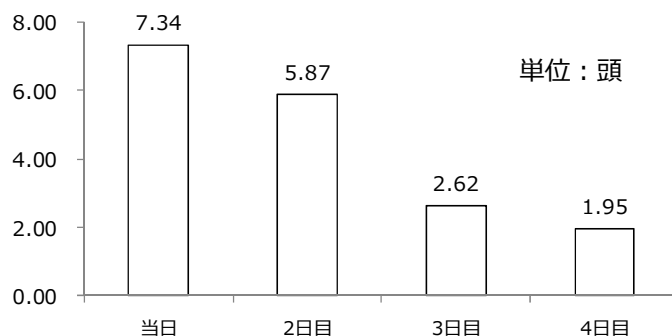


図5 新たな餌配置後からの経過日数が1日当たり撮影頭数に及ぼす影響（2018年6～9月、農業総合試験場）

引用文献・資料等

- (1) 江口祐輔. イノシシの行動研究にもとづく被害対策. 哺乳類科学53(1). 2013
- (2) 環境省. イノシシの保護管理に関するレポート（平成25年度版）. 2014
- (3) 本田ら. 林縁周辺で捕獲されたイノシシの環境選択. 哺乳類科学48(1). 2008
- (4) 楠本ら. ニホンイノシシの仔にみられる行動解析（第1報）授乳行動. 佐賀大農彙99. 2014
- (5) 河村直紀. 竹(たけ)檻(おり)によるイノシシ捕獲. 愛知県公式ウェブサイト「ネット農業あいち」. 2015
- (6) 石原元浩. くくりわなを使用した捕獲による獣害対策～獣害対策？やっぱ捕らなきゃしょうがないでしょ！～. 愛知県公式ウェブサイト「ネット農業あいち」. 2010

2025年3月 第2版発行

●お問い合わせについて

愛知県農業水産局 農政部 農業振興課 野生イノシシ対策室

所在地：〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸3-1-2

電話：052-954-6726 FAX：052-954-6008